

まぶ で KO SO!

過去の記事は  
こちら



# 命を護り社会平らかに

私が数学を究める理由

日本の平均寿命は世界トップクラスである。2024年の厚生労働省の発表では、男性81.09歳、女性87.14歳でさらなる伸びが推測されている。人生100年の時代が訪れつつある。

私は健康寿命の伸びにつながる後期高齢者の栄養、運動、休養等の研究をしてきた。近年のテーマは、貧血や低栄養、糖尿病、認知症等の実態と関連要因の明確化である。方法は統計解析をはじめ、人工知能(AI)やニューラルネットワーク、ディープラーニングといった機械学習の数学を駆使したものだ。

数学は性別や年代、国や文化等に隔たりなく数字や数式、図形等により物事や事象等を説明、表記でき得る学問であり私



フレイル予防に取り組む  
高齢者たち―群馬県内で  
(筆者提供)

の得意科目であった。しかし、その本意を理解して来なかったため、中学生のころからは「何の役に立つのか?」「何のために勉強するのか?」と思いはじめた。ささいな疑問に過ぎなかったが、将来の進路を決める高校3年で、壁に衝突した。

両親や兄、先生にも将来の相

談や助言を求めたことがなく、母と担任の先生との面談で「数学者になりたい」と告げると、両者から「向いていない」と言われた。「何のために数学を学び、究めるのか」の説明はおろからず、考えや意見さえもなかったからである。沈黙の後、先生から「ご両親の仕事や職場を見学



小林和成さん

してはどうか」との提案があり、私はその真意も分からないまま母の職場へと足を運んだ。

実際に母の勤務する介護施設に訪れると、多くの気づきがあった。入所者の体温や血圧、呼吸、脈拍等が数カ月、数年にわたり実数や平均値、棒や折れ線グラフ等で記録されていた。また、日常的な動作や筋力、記憶力、判断力等が入所者の数カ

月、数年前の値と比較され、将来推測に基づく支援計画によるケアがされていた。さらに、看護師等により個々の入所者に合った言葉遣い、歴史や地理、草花や生き物等の興味関心のある会話、俳句や手芸、料理、軽体操等が行われていた。

そこにはさまざまな学問があり、人々の健康や生活、命を「護る」ために活用されていた。私は入居者の姿が足腰の弱くなった祖母と重なり、数学を学ぶことよりも祖母と一緒に過ごす時間の大切さに気づかされた。夏休み明け、看護学を学ぶ決意をした。先生からは「小林君らしい進路が見つけられて良かった」と言われ、母とともに心配してくれていた祖母は笑顔で背中を押してくれた。数学の道を反対していた父はうなずいてくれた。

学問とは、自分の成長や興味関心を満たすためのみではなく、人々の健康や生活、命を護り、社会を平らかにするために活かし、究めるものではないかと思う。私にとっては、それが数学だった。現在、「ナイチンゲールを目指すならば数学を学ぼう!」というテーマの出前授業を通して、人が学問を通し、他者や社会に貢献する意味や意義を岐阜県内外の高校生たちとともに考えている。

こばやし・かずなり 岐阜大学医学部看護学科准教授、専門は地域看護学。名古屋大学大学院博士後期課程(看護学博士)。1978年生まれ。

